

変革期を迎えた夢化学の活動

夢化学・メディア対応 WG は、従来の化学普及小委員会が発展的に解消し、平成 13 年度からスタートした組織である。この WG は、化学系四団体の合同組織である「夢・化学-21 委員会」の産官学連携による、幅広い化学普及啓蒙活動の責任の一端を担っている。

13 年度の活動報告

「学」で協力する日本化学会は、「夏休み子ども化学実験ショー」の企画・実施、「中学作文コンクール」の審査等を担当してきた。今年度は「中学作文コンクール」の審査はもとより、「夏休み子ども化学実験ショー」をより発展させた「化学展」(平成 13 年 8 月 16 日～21 日:新宿高島屋 10 階)をサポートした。この「夢・わくわく化学展 2001」についての詳細はすでに報告されているのでここでは省くが、本 WG のメンバーもこの化学展実行委員会のメンバーを兼務しており、貴重な映像を取り込んだ DVD「わくわく化学マジックワールド」の刊行、手作り実験ステージやおもしろ化学体験教室などに参画した。今年度は、新しい飛躍のために、議論についやした一年であった。次にこれらの議論をふまえた来年度の展望について紹介する。

14 年度以降の活動企画

●参加型実験を中心とした夏休み子供実験ショー

今年度「夏休み子供実験ショー」を日本科学未来館を会場に実施の方向で進めている。平成 6 年からスタートした「夏休み子供実験ショー」であるが、内容的には子供向け参加型実験を充実させるとともに、教師が役立つ実験教室や大人も楽しめる講義実験なども企画する予定である。またクイズショーも実施し、そこでの様子は、先の実験教室も含めて、ネットで配信できるように、デジタルコンテンツの一つとして、記録しておく。また、わが国の科学館などに、化学分野の常設展示が少ないことを考えると、ここでの実験ソフトは、将来の日本科学未来館の常設展示ソフトとして、提供していくことも視野に入れるべきであろう。

●化学実験等デジタルコンテンツの集積とネットワーク化

前にも少し触れたが、現場の教師が授業に利用でき、子供たちがクラブや家庭でもやってみたくなるような実験素材のデジタル化と集積は、化学啓蒙の観点からも急務である。さらに、インターネットを通じて、これらのデジタルコンテンツを利用者に配信することも必要である。化学教育協議会としてのインターネット対応の整備については、すでに本誌で

報告されているように、ホームページ WG で HP の立ち上げがすすんでいる。本 WG もこの HP からリンクできるインターネット上での化学の質問コーナーや実践に役立つ普及活動の一部を紹介するコーナーなど開設に取り組んでいる。また、このようなサイトを使えば、自由研究の課題を全国的に発信し、優秀な研究レポートには賞を与えるような作文コンクールに変わる企画も可能となる。

●化学コンクールの継続

化学展で参加者に好評であった木炭・アルミ電池のコンクールを今年度夏休み子供実験ショーと同時開催の形で継続する。様々な実技のうちでも安全性が高く、創意工夫の余地がそれなりに大きく、結果が目に見えるという点で意義深いテーマと考えられる。実行にあたっては本 WG とは別に実行委員会が創設される。本 WG も今回の化学コンクールをサポートしながら新しい化学コンクールのソフトについて模索していくつもりである。

●マスコミへの対応

科学番組などの企画や質問解決のブレインに学会はもっと積極的に売り込むべきではないだろうか。科学番組等を通じて化学を積極的に普及するための化学会の窓口は必要であり、メディア対応の本 WG でも具体的にどのような形がベストか模索していくつもりである。

●各支部の連携

各支部では独自に様々な化学普及事業をおこなっている。例えば夢・化学-21「大学化学実験体験」や出前講義実験などのソフトをデジタルコンテンツとして集大成し、情報交換し、普及の効率をあげる。さらに実験ソフトとして、中・高校の現場で使えるものは、インターネットで発信できるようにする。

以上実現にはまだ相当の努力を要するものもあるが、読者の方々のご意見・ご支援をお願いしたい。

齊藤 幸一 (開成学園)

夢化学・メディア対応 WG 主査

夢化学・メディア対応 WG 委員: 大野哲也 (都立葛西南高), 岡村 寿 (富士フィルム), 小川治雄 (学芸大教育), 齋藤 潔 (桐蔭横浜大工), 齊藤幸一 (開成学園), 坂井英夫 (学芸大附属高), 佐々木和枝 (お茶女大附属中), 菅原義之 (早大理工), 内藤卓哉 (東芝), 中村聡 (東工大生命理工), 茂串圭男 (県立春日部東高), 山元公寿 (慶大理工), 若林文高 (科学博物館)